

第 3 回 館山市議会定例会会議録

(第 3 号)

1 平成元年9月19日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1 番 脇田 安保
3 番 田沢 勝信
5 番 岩村 勝弘
8 番 鈴木 勝美
10 番 鈴木 忠夫
12 番 榎本 春光
14 番 小宮 利夫
16 番 石井 昌治
18 番 日下 君敏
20 番 福原 勤
22 番 黒川 平治
25 番 渡辺 昭夫
28 番 飯田 義男

2 番 永井 龍平
4 番 庄司二三男
6 番 山崎 雅己
9 番 山口 康雄
11 番 神田 守隆
13 番 山中金治郎
15 番 横溝 功
17 番 石井 謀
19 番 川名 正二
21 番 辻田 実
23 番 流山源次郎
26 番 近藤 好雄

1 欠席議員 2名

7 番 生稲 陞

27 番 林 豊

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 渡辺 弘
総務部長 渡辺 秀夫
経済部長 安西 良一
教育委員会 杉村 芳枝
教育委員 会長
農業委員会 岩城 昭
農務局長

助役 小倉 澄男
市長公室長 錦織 茂
民生部長 小幡 清之
水道課長 鈴木 信一
教育委員会 福原 修
教育委員 会長

1 出席事務局職員

事務局長 川上 義雄

事務局長補佐 兵藤 恭一

1 議事日程（第3号）

平成元年9月19日午前10時開議

日程第1 議案第49号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償
に関する条例の一部を改正する条例の専決処分
の承認について

議案第50号 千葉縣市町村公平委員会共同設置規約の一部を
改正する規約の制定に関する協議について

議案第51号 館山市の休日に関する条例の制定について

議案第52号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償
に関する条例の一部を改正する条例の制定につ
いて

議案第53号 館山市減債基金条例の制定について

日程第2 議案第54号 館山市ふるさと創生人材育成基金条例の制定に
ついて

議案第55号 館山市ふるさと創生奨学基金条例の制定につ
いて

議案第56号 館山市ふるさと創生奨学資金貸付条例の制定に
ついて

議案第57号 長寿健康都市宣言について

日程第3 議案第58号 平成元年度館山市一般会計補正予算（第3号）

日程第4 請願第20号 館山市館野の全地域に、上水道を早期に設置願
うことについての請願書

開 議 午前10時03分

◎副議長（石井 謀君） 本日の出席議員数25名、これより第3回市議会定
例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎副議長（石井 謀君） 日程第1、議案第49号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の専決処分の承認についてを議題といたします。

質疑応答

◎副議長（石井 謀君） これより質疑を行います。

御質疑はありませんか。

11番神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 議案の第49号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の専決処分についてでございますけれども、説明書の2ページによりますと投票管理者あるいは投票立会人などの報酬日額を7,000円から7,500円に、5,700円を6,100円にそれぞれ引き上げましたという内容でございますけれども、これは国会議員の選挙の執行経費の基準に関する法律の一部改正が6月28日付でなされたので、7月23日の参議院選挙に間に合わせるために7月19日に専決処分をした、こういうような説明になっておるわけですが、そこでお尋ねしたい点は今回のこの条例の改正の根拠になっております法律の改正、国会議員選挙の執行経費の基準に関する法律というのは、国が選挙費用として自治体に交付をする額の基準を示すもので、市としては直接この基準に拘束される性質のものではないと、こういうふうに思うのですが、この点についてどうか。こうした点から現実には他市あるいは近隣の町村、こうしたところにおいてこの日額報酬額はそれぞれ独自に決められているということが考えられるわけですが、他市や近隣町村のこの報酬額の動向はどのようになっておりますか、この点について御説明をいただきたいと思います。

◎副議長（石井 謀君） 半澤市長。

◎市長（半澤良一君） お答えをいたします。

御指摘のとおり、国の交付する基準でございます。他市の状況でございますが、県南8市につきましては当市と同じ国の基準による額、管理者7,500

円、立会人 6,100円の市が東金市、鴨川市の2市でございまして、木更津市は管理者 8,500円、立会人 8,000円、富津市が管理者 7,500円、立会人 7,000円、勝浦市が管理者 7,200円、立会人 6,500円、君津市が管理者 7,200円、立会人 6,300円、茂原市が管理者 7,200円、立会人 6,000円となっております。

また、近隣町村につきましては、国の基準によるものが天津小湊町の1町、他は富浦町が管理者 9,500円、立会人 9,200円、丸山町が管理者 9,300円、立会人 8,700円、白浜町が管理者 9,300円、立会人 8,200円、千倉町が管理者 8,900円、立会人 8,400円、鋸南町が管理者 8,000円、立会人 7,800円、富山町が管理者 7,800円、立会人 6,300円、和田町が管理者 7,700円、立会人 6,600円、三芳村が管理者 7,500円、立会人 7,000円でございます。

なお、富浦町につきましては、昭和57年度から据え置き、和田町は昨年度から据え置いております。

以上、答弁終わります。

◎副議長（石井 謀君） 11番神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 国の基準に沿って今回引き上げようということありますからそれはそれで理解をするんでありますけれども、県南の8市の状況ですと高いところあるいは低いところもあると、今の御説明ですと。近隣町村においては、富浦町を最高といたしましてみんな館山市より — 天津小湊が同じということでありましたけれども、それ以外は全部高くなっている、こういう御説明で、各自治体がそれぞれ独自に決めるものだということですから、これでももちろん構わないわけでありまして、そうすると市としては基本的にはこの辺の考え方についてはこれまで国の基準ということで、今回もあえて専決処分ということでこの国の基準に合わせたという経緯もあるわけでありまして、こうした基本的な考え方この辺で改めて確認をしておきたいと思うんですが、こういう近隣の状況を踏まえましてどのようなお考えを持っておりますか。

◎副議長（石井 謀君） 渡辺総務部長。

◎総務部長（渡辺秀夫君） お答えいたします。

やはり国の基準に基づきましてやっていきたいと思っております。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 他に御質疑ございませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎副議長（石井 謀君） お諮りいたします。

本案について委員会の付託を省略したいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（石井 謀君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎副議長（石井 謀君） これより討論を行います。

討論はございませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎副議長（石井 謀君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（石井 謀君） 御異議なしと認めます。よって、本案は承認することに決しました。

議案の上程

◎副議長（石井 謀君） 日程第2、議案第50号乃至議案第57号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

◎副議長（石井 謀君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 議案の第51号館山市の休日に関する条例についてお尋ねをいたします。

第2、第4土曜日を休日として役所を休む、いわゆる閉庁しようとするものでありますが、確かに週休2日制は進展を見ております。しかしながら、まだまだという面もございます。この土曜休日の扱いにつきましては、職員の労働時間の面で考えることは当然のことではありますが、同時に市民サービスの面からも十分な検討が必要だと考えます。市の休日とはいっても、市民サービスに直結する部門は休みとするわけにはいかないということもあるわけであります。こうした市民サービスの面でどのように考えておりますか、具体的に土曜休日を実施する部門、しない部門について御説明をいただきたいと思います。

次に、職員の勤務条件、労働時間の面ではどうなるのか。現行では4週6休制がとられているわけではありますが、第2、第4土曜日の休日ということですと、このままでは労働時間は年間を通して見ますと単純に考えて2日分ほど多くなるということになります。職員の勤務時間についてはどのように考えておるのか。労働時間がむしろ長くなるというようなことはないというふうに理解をしていいのかどうか、御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、議案の第53号館山市減債基金条例についてお尋ねをいたします。昭和55年以前の財源対策債の元金残高相当額が地方交付税で算定されたのに伴い、その相当額を基金として積み立てようとするものであります。補正予算案によりますと、2億4,213万円を積み立てるようであります。この積み立てられた減債基金について、条例案では今後さらに積み立てをすることも、また逆に市債の償還に充てるなどのために処分することもできるとしていま

す。昨年度の議会での質疑の中で、館山市の公債費比率や財政規模に対する市債残高の割合などではいずれも県内28市中トップクラスの水準であったと存じます。繰り上げ償還を積極的に行ってきたのもそこに根拠があったことと思います。国の指導で基金を設置するとしたのはそれ自体はわかるわけですが、当市の現況を踏まえてこの基金を今後どのように運営していくかは市自身の問題であります。そこで、この基金の今後の積み立てやあるいは処分についてどのように考えておるのか、御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、議案第56号館山市ふるさと創生奨学資金貸付条例についてお尋ねをいたします。奨学資金の貸し付けについてでございますが、これまでの福祉事務所の所管から教育委員会の学務体育課に奨学資金の貸し付けの事務を移管をし、教育施策的観点から学資を貸し付けていこうということでございます。そこで、貸し付けの対象についてでございますが、教育的施策という点から実施されております日本育英会の貸し付け対象には大学院が含まれているわけでありましたが、今回の市の貸し付けの対象にはこの大学院は含まれてはおりません。有為な人材であれば大学院への進学も珍しくなくなっております。大学院を支給の対象にしない理由は何でありますか、今後検討していくというお考えはありませんでしょうか、お尋ねをいたします。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（石井 謀君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、議案第51号についてでございますが、その小さな第1点でございますが、土曜閉庁の実施に当たりましては去る6月議会でも申し上げましたが、特に市民生活に関係が深く、また土曜日、日曜日など週末に利用の多い施設等につきましては閉庁せずに現行どおり業務を行い、市民サービスの低下にならないよう努めてまいります。

なお、現行どおりに行う業務は、ごみ収集、保育園、幼稚園、図書館、博物館、公民館、老人福祉センター、温水プール、市民運動場、城山公園、鳩

山荘、ユースホテル及び現場でございますが、水道の一部でございます。

また、平常時の諸証明の交付につきましても、原則的には窓口に来ていただくわけですが、都合で来られない方にかわって職員が手続を行う市民連絡便の活用や、市内13カ所の郵便局に備えつけてある申請書を利用した郵送による館山メールの活用を図り、市民サービスの向上に努めてまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点、職員の勤務時間についてでございますが、土曜閉庁の実施に伴いまして第2及び第4土曜日が休日となるわけでございますが、職員の勤務時間につきましては既に昭和61年11月から実施しております4週6休制の枠の中での改正でございますから基本的には変わりません。しかし、改正前と比較いたしますと週44時間から第2、第4土曜日の週は40時間、それ以外の週は44時間で平均42時間となり、勤務時間が短縮されることになります。また、現在のように職員の半数が勤務する土曜日の勤務体制が、原則的には休日となる一斉方式に改められることになりますので、事務効率の向上が期待できると考えますし、一方では余暇時間の計画的な利用が図られ、職員の豊かで健康的な生活の実現に大きな効果があるものと考えております。

次に、議案第53号についてでございますが、まず基金の運用利率については1日1日変動しておりますし、各金融機関の預け入れまたは契約の条件にもよりますが、年率4.7%以上は見込めるものと考えております。

次に、基金の処分についての問題でございますが、まず基金の積立額について御質問いただきましたが、御承知のように今回の減債基金につきましては、地方財政健全化対策の一環といたしまして今年度の地方交付税において、昭和55年度以前に発行された財源対策債の平成元年度末における元金残高相当額2億4,213万円が基準財政需要額に措置されたことに伴い、国の指導により基金を設置し、これを積み立て償還に充てようとするものでございます。

なお、今後このほかの積み立てにつきましては、現段階におきましては考えておりません。

次に、基金の処分についての御質問でございますが、基本的には今回の積み立て理由を踏まえて、各年度の該当する財源対策債分を処分してまいりた

いと考えております。

議案第56号につきましては、教育長から御答弁申し上げます。

◎副議長（石井 謀君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 議案第56号についてお答えをいたします。

ふるさと創生奨学資金の貸し付け対象に大学院生を支給対象にしない理由
は何かという御質問でございますが、今回の条例制定に当たりましては高校
生、短大生、大学生が安心して就学できるような経済的な環境を整えるよう
配慮してまいりました。大学院生を対象としていない理由は、今まで館山市
奨学資金貸付条例による対象者に大学院生の希望がなかったためございま
す。なお、調査した結果、大学によりましては大学院生への奨学金貸し付け
制度がありますが、今後大学院生から貸し付けの希望が出てまいりましたな
らば十分検討して対処してまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 11番神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 館山市の休日に関する条例の関係であります
が、先ほど閉庁しない部門ということで例示がされたわけではありますが、率直に
申し上げまして非常に出先といいますか、こういうところが大体全部含まれ
ておるのではないかなと。そういたしますと、逆にいうといわゆる閉庁をす
るというのはこの本庁関係というふうに理解していいのかどうか、それだけ
だというふうに理解していいのかどうかということです。

それと、今回安房郡市一斉に各自治体がこの11月1日をもって実施をする
と、こういうような動きのようではありますが、この館山市の職員の勤務条件、
労働条件、労働時間、こういう点から見た場合に、県内28市、他市との比較
という点からはどのようになっていますか、この辺の館山市の置かれてい
る状況というものについて御説明をいただきたいと思います。

それから、減債の基金条例については、これ大体話はわかりました。

議案の第56号のふるさと創生奨学資金の関係であります、大学院生につ
いては貸し付けの希望があった場合に積極的に対処をしていきたいというこ

とでありますから、積極的に対処していくというのは現行の条例のもとではちょっと無理なんではないかな、条例の改正が必要になるというふうに思いますので、その積極的に対処するというのは条例の改正をしていきたいというような意味ではないかなというふうに理解をするんですが、いかがですか。

それと、現行のもとでは、この貸付金の条例は大学まで進みまして貸し付けを受ける、そして卒業いたしますと返済をしなければならないわけですが、この返済について猶予するというような規定がございますけれども、大学を卒業してさらに進学をしたという場合には、当然これは直ちに現行の条例のもとでも徴収猶予の対象としてこの現行条例のもとで扱えるのではないかなと思うんですが、先ほど積極的に対処するというようなお話がございましたので、その2つの面でどうなのかということについてお聞かせをいただきたいと思います。

◎副議長（石井 謀君） 渡辺総務部長。

◎総務部長（渡辺秀夫君） 神田議員の質問にお答えいたします。

まず、本庁だけがということでございますが、市民サービスの低下を来さない業務ということでございますが、どうしてもやはりごみ収集とかそういうもの、出先の方はちょっと振りかえ休日をしてやっていくということで御理解いただきたいと思います。

それから、安房郡市はこの9月議会でみんなほとんどかけていくということでございますし、また千葉県下で総体的な勤務時間は土曜閉庁をやった場合、千葉市にしてもほとんど42時間ということでございまして、また各町村でもほとんど42時間ということでございます。特に、40時間というようなところは千葉県ではございません。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 大学院生の場合は現在対象になっておりませんので、当然大学院生の中の希望者が出てまいりましたならば、大学院生に奨学資金を貸し付けようとするならば条例の改正をしなきゃならない、このように考えております。

それから、さらに新しい別な大学へ進学した場合はというような御質問でありますが、当然人材育成ということが主たるねらいでございますので、その条件にふさわしい人物であるならばこれも当然対象に入れなきゃいけないんじゃないかと、このように考えております。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 以上で11番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） 通告をいたしました議案第54号館山市ふるさと創生人材育成基金条例の制定について並びに議案第56号館山市ふるさと創生奨学資金貸付条例の制定について、議案第57号長寿健康都市宣言についての3議案について御質問申し上げますので、よろしくお願いいたします。

まず最初に、議案第54号館山市ふるさと人材育成基金条例の制定について御質問申し上げます。この条例の第4条でございます。運用益金の処理について御質問をいたしたいと思います。全市町村一律の1億円補助によるふるさと創生資金は大きな話題を呼んだわけでございます。しかし、その資金の捻出方法、さらには交付の方法においては予算執行の常道を逸脱したということによって多くの問題を残しておるように思われます。それでも、財源の乏しい自治体の中におきましては非常にありがたいことであり、その有効利用を図るという意味でもってこれらの資金が現在活用されようとしているわけでございます。館山市でもこうした観点に立ちまして、ふるさと創生人材育成条例が制定されるわけでございますけれども、こうした経過等を踏まえて私は意義ある活用方法を考えていかなければならないというふうに考えているところでございます。

そこで、質問に移ります。4条は、基金の中から益金が出た場合に一般会計に繰り入れて処理することになっております。したがって、事業内容の青少年の海外派遣と地域リーダーの育成事業が予算計上されなかった場合、またはされてもこれらの事業が執行されなかった場合には、この益金はどのような形で処理されるのか、お伺いをいたすところでございます。

2番目に、事業内容が益金を上回った場合、そして同時に下回ったときの扱いについてもどのようになされるのか、お伺いをする次第でございます。

2番目の質問に移ります。54号の中の事業内容についてお伺いをいたしたいわけでございます。まず、青少年の海外派遣補助事業は、どのような基準と方法をもって決めていくのか、教えていただきたいと思います。

2番目に、この地域リーダーの育成は地域リーダーの育成事業として公募によって参加者を募るということでございますが、どんな方法でどのような種類の人たちを公募をするのか、そしてそれらを所管し、選考に当たる責任者はだれになるのか、教えていただきたいと思います。

次に、議案第56号館山市ふるさと創生奨学資金の貸付条例の制定について質問を申し上げます。ふるさと創生奨学資金の内容についてはおおむね了解するところでございます。しかし、この第14条の委任事項では、これまでの福祉事務所の所管から館山市奨学資金貸付制度を廃止して新しく教育委員会に所管を移して、そしてふるさと創生奨学資金制度を設けようというものでございます。

そこで、お伺いをいたします。学業が優秀な者とは何をもってその基準にしていくのか、まずお伺いしたいところでございます。私は非常に学業がすぐれている男ではございませんでしたので、ひがんで言うわけではございませんけれども、優秀な人を基準に奨学資金を貸し付けるということについては、現在の状況の中においてはいささか問題があると思うわけでございます。この点について私はお尋ねをするわけでございます。自治体の奨学資金というものは、そもそもよって立つこれまでの経緯から見ていきまして、経済的に恵まれず学業を続けることができないという人に対しまして貸し付けてきたものというふうに思われます。したがって、これまでは福祉事務所の中において事務局を置き、福祉という観点から奨学資金が扱われてきたことは妥当であったろうというふうに思うわけでございます。

また、現在積み立てられておりますところの奨学資金の基金は、経済的に恵まれず勉強をしようとしてもできない人のために、一般からも多くの企業からも善意の寄附ということでもって集められている部分が非常に多く占め

ておるわけでございます。これらを考え合わせてみますれば、学業が優秀でなくてもまじめな学生、一生懸命に勉強しようと向学心に燃えている人、こういう人のために学業が続けられるように、その人が必ずしも優秀でなくても私はこういう人に、経済的に恵まれないために学業ができないという人に貸すのが奨学資金の本来の目的であり、これまでの経緯であり、今までの積立基金の私は本質であろうと思うわけでございます。その本質を廃止して、そして学業の優秀な者だけに貸し付けていこうということにつきましては、これ片手落ちであろうと。したがって、今あるこの奨学資金、福祉的な立場の資金というのは、私はこれは堅持していなきゃならない。そして、優秀な人について、これはまた人材育成ということでやるのはまた別途の形で持って持っていけないと、私はこの奨学資金制度そのものが私はおかしくなってくる。私はこういう観点でもってこの奨学金というものを今後運営していかないと、今まで基金を集めた人は経済的に困るので勉強できない人にやってやろうということで数千万円が集まったわけですから、それを全部今度優秀なということになれば、私は教育というものは必ずしもエリート、優秀な人だけのものじゃないというふうに思っています。公平に、平等に、能力に応じて教育の場を与えるというのが教育の基本法でございしますから、そうした観点でもってこの扱いを慎重を期してもらいたいという観点で、こうした点についてはどのようにお考えになっておられるのか、今後こうした点はどのようになっていくのか、私は明確な御答弁をいただきたいというふうに思うわけでございます。

次に、議案第57号長寿健康都市宣言についてお伺いするところでございます。健康で長寿を願うことは世界じゅうだれでも異存のないところでございますし、同じ願いだというふうに思います。しかし、都市宣言として議会で議決をすることになりますれば、多少慎重を要する点もあろうかと思うものでございます。

第1は、現在館山市は福祉都市宣言をいたしております。福祉と長寿の持つ意味合いは非常に似通っております。この2つの都市宣言をすることは少ししつこ過ぎるんじゃないかというふうに思うわけでございしますけれども、

この点はどうなのでしょう。

2番目に、65歳以上の高齢者は非常に多いといっても、館山市の場合には17%前後でございます。過疎化が進み活性化が望まれているときに、市政の振興の基本に長寿を置くことは悪くはございませんけれども、私は消極的過ぎるのではないかというふうに思います。館山市は活性化を願っております。若者からも、リゾートを目指す観点からももう少し積極的な若者のための、若い人たちが寄りつくような町、そして都会や何かからこっちへリゾートでもってやって来るために、田舎くさい、じじくさいという感じのない、非常に若さと希望にあふれる町にしていかなければ、リゾートとしての存在というものは成立していかないんじゃないか。老人を大切に、老人天国にして、老人を誘致するというところで図っていくのなら結構でございますけど、ウェルネス構想の基本はやはり若者、活力のある者でございます。そうしたものの魅力ある都市をつくろうという中に長寿宣言ということは、多少そぐわない面があるんじゃないかというふうに思います。

これ私はつい1週間ほど前、長生村というところを訪れたわけでございます。あそこには今120メートルのビルを建てることになっております。それは某保険会社のビルでございます。それについての経緯がその社長さんが来て議会に説明したそうでございます、全員協議会で。長生村という名前が非常にいいから、ここの人たちは長生きするだろうから、保険会社としてはデラックスな建物を建ててぜひそこに預けたいと、こういうことを申し出たそうでございます。議会のほとんどの人たちが冗談じゃありません、うちの町にリタイヤした人たちを集める場所にされたんじゃ困ると、そういうことについては納得できない。そして、このビルに入れるのは年寄りの人は結構だろうけれども、何か20%か30%以内にしてもらいたいと。それ以外は若い者だとか一般にってもらいたいということを注文つけた。そして、そのことについては保険会社の社長さんはごもっともでございますと。やっぱり町の振興という意味につきましてはそういう年寄りばかり全部預けるということでは行き過ぎだと思いますので、その点は十分考えて考慮しますということをもって譲歩していったという経緯を聞きまして、そしてそのことは私は長生

村の議員の人たちの考え方は年寄りを粗末にするとか云々じゃなくて、市政の振興という意味を考えた場合にはやはりバランスをとっていかなきゃならない。

こういうことの中でもって、私は館山市の都市宣言が交通安全とか暴力団追放とか福祉というようなどっちかという消極的な面、そしてまた今度は長寿という形の中でもって、どっちかという消極的な宣言が多くて、もっとスポーツ振興だとかそういう明るい前向きな、活力的な宣言というものがない中でもって、さらに一層館山のイメージというのをそういう方向に持っていくんじゃないかという点で私は心配するわけでございまして、この点についてはどのようにお考えになるのか。

そして、長寿ということは都市宣言でなくてもっとほかの形の中でもって、福祉団体とかまた健康祭り実行委員会の中の宣言とか決議、こういう形の中でもって私は扱っていったいいんじゃないか。この説明の中に、市長は館山市の振興の基本に長寿というものを置いていくということですけど、基本ということになってくると長寿もそうだろうけど、私は同時にやはり若者が魅力あるまち、そういうものを85%は老人以外の人がいるわけでございますから、そういう点に目を向けた言葉遣いというものも必要じゃないかというように思うわけでございますけども、こうした点について長寿宣言が悪いというわけじゃありませんけど、そういうところを考えて扱いを慎重を期していった方がいいだろうということを思うわけでございまして、そこら辺の見解をひとつ聞かせていただきたい。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 辻田議員の御質問にお答えをいたします。

議案第54号の第4条の運用益についてでございますが、運用益につきましては経済情勢により影響するところが大きく、次年度の状況を予測した運用益を見込み事業費を計上いたしたいと考えております。事業費が運用益を上回る場合は一般財源をもって充当し、逆に運用益が事業費を上回った場合は

次年度以降で調整してまいりたいと考えております。

議案第54号及び55号の内容についての御質問でございますが、議案第54号の館山市ふるさと創生人材育成基金条例につきましては、基金の運用から生ずる利益をみずから考えみずから行う地域づくり事業といたして行おうとするものでございまして、青少年海外派遣事業及び地域リーダーの育成事業に充てようとするものでございます。

次に、議案第55号の館山市ふるさと創生奨学基金条例につきましては、基金の設置により人材育成の面から、高校や大学に進学するものに就学上必要な学資の貸し付けを充実するものでございます。

議案第56号の御質問でございますが、館山市ふるさと創生奨学資金貸付条例につきましては、人材を育成するという見地から教育委員会へ移管するものでございます。また、基金の弾力的な運用を図るため、館山市奨学資金貸付条例の廃止、統合を前提としており、第3条第1項第4号のとおり現在の奨学資金制度の趣旨である経済的な理由により就学が困難な者の救済も含めた制度としております。

次に、議案第57号長寿健康都市宣言についてでございますが、長寿健康都市宣言は既に宣言している福祉都市宣言と競合するのではないかという趣旨の御質問でございましたが、福祉都市宣言につきましては人間尊重の理念のもとに、社会的に弱い立場におられる人たちの福祉の向上を目指して文化福祉都市の実現を掲げたものでございます。今回上程しております長寿健康都市宣言につきましては、現在働き盛りの方々ががんや脳卒中、心臓病といったいわゆる成人病によって死亡するケースが非常に多くなっております。これらの成人病は若いうちからの生活慣習の改善によりましてかなり予防できると言われております。このようなことから、「自分の健康は自分でつくり自分で守る」という意識の高揚を図り、健康で活力ある長寿社会の実現を目指して宣言しようとするものでございます。

なお、市政の活性化という観点から具体的にどんなことをするかという御質問でございますが、健康で長生きするということはすべての市民の願いでございます。具体的な内容につきましては、「自分の健康は自分でつくり自

分で守る」のスローガンを掲げまして、健康づくりの市民意識の高揚を図るため、本年の健康祭りの総合開会式にその宣言を行う予定でございまして、さらに関係各課で行っております健康づくり行事の拡充を図り、健康増進対策事業といたしまして厚生省のヘルスパイオニアタウン事業の指定を受けるべく検討し、健康づくり事業を積極的に推進する所存でございます。

なお、答弁が不十分な点があるかと思しますので、関係部長から追加説明をいたさせます。

◎副議長（石井 謀君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 議案の54号、55号の事業内容につきまして補足をさせていただきます。

青少年海外派遣でございますが、これは広く世界を見聞して国際的な感覚を培うとともに、未来を担う人材を育成しようとするものでございます。対象は15歳以上35歳までの館山市民でございます。対象人員は5名を予定しておりまして、希望者多数の場合は公開抽せんを考えております。なお、この実施につきましては、運用益の出る平成2年度から実施をするというふうに考えております。

また、御質問の責任者ということでございますが、これはもちろん館山市長ということでございます。

続きまして、奨学資金の関係でございますけれども、これは教育的な観点から就学の推奨と21世紀の館山市を担う優秀な人材の育成と定住の促進を図ってまいりたいと、こういうようなことから、今までの福祉を目的としていた低所得者層に対する奨学金を、所得の規制をもっと拡大いたしまして広く優秀な人材を求めようということと、館山市に定住をするように促進を図ってまいりたいと、こういうようなことから担当課も福祉事務所から教育委員会に変更をしたわけでございます。対象は市内に住所のある者、また対象貸し付け人員は大学を10人、高校を7人、このぐらいにしていっていいんじゃないかということでございます。また、支度金につきましても、現行の30万から50万に増額をするということ。それから、この適用の関係でございますけれども、平成2年度入学者から適用をして、平成元年度、現在の入学者

については今までどおりの例によると、これ平成元年度いっぱいでございますが。そして、これは平成2年度から一緒にして、既存分の4,100万円と今年度の分の7,500万円、これを合計しまして1億1,600万円で運営をしていこうと、こういうようなことでございまして、また市長からも御答弁のありました福祉関係でございますけれども、これも資金の弾力的な運用を図って、現在の奨学資金制度の趣旨である経済的な理由によって就学が困難な者の救済というものもちろん含んでおりまして、両方を含んでやっていこうと、こういうような考え方でございます。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 21番辻田 実君。

◎21番（辻田 実君） 最初に、運用益と事業内容でございますけれども、これにつきましてはあくまでもこの事業は益金の範囲内でやっていくということなのか、その必要に応じて、益金はあるまで基準であって、そして必要に応じては一般予算をプラスしていくという方向があるのか、その点についてまず明確に御答弁をいただきたいと思います。

それから、続いて56号の委任先の変更でございますけれども、先ほど来ちょっとしつこく言いましたけれども、私は学力優秀というのはどうも抵抗を感じまして、一般から聞いてもこれは趣味が悪いというんです。私の同僚なり仲間が趣味が悪いのかどっちかわかりませんが、何かこれ優秀、優秀というこれは教育的に、また学校の先生にも聞いたら余り優秀だとか優秀でないという言葉は学校現場で余り使いたくないということ言っていました。それは教育的に一番弊害があるということを聞いて、どうも私の聞く範囲ではエリート意識というんですか、優秀だとかいうことを市政の根幹に据えていく、その言葉は私は抵抗感じてしょうがないんですけど、市政というものはどっちかという福祉というんですか、そういうものを引き上げるというところにはかなり重点があっていいような気がするんですけども、その点についてはどうなんでしょうか。これは別に優秀な人を私は何ですか、抑えようとか何とかというのありません。ないけど、市政の中でもってそれを強調し過ぎるとやはり私は問題があるんじゃないかと。この点について

私別にここでもって撤回しろという気ありませんけども、強く強調していかないと私は今後のやっぱし示しが見つからないというふうに思います。そういう世論が非常に強いですから私はあえて言うわけでございますけど、その点については再度ひとつ御答弁をいただきたい。

それからもう一つ、私この優秀な人を育てるということについてはやぶさかじゃありません。優秀な人を育てるというんだったら私はさっき申したように2本立てにしないかということです。今の奨学資金制度の貸付金の額、その他は、これ優秀な人を育成するものじゃありませんですよ、額じゃありません。生活費を補う意味の額でございます。私の友人にも医学部へ入ったのはいいけども、何千万円かかってとてもじゃない。うちの財産全部売ってもしようがない。子供が優秀なのもいいけれども大変なものだと、こういうことを言っております。それから、文化系でございますけれども大学院に残ると。大学のときは何とかごまかしたけども、大学院になるともう教材だとか研究費が大変だと。アルバイトも制限される、大学院の場合。そして非常に、これはドクターコースでございますけども、かなり高価な教材等も義務的に買わせられるし、また非常に学会なりそういったものにも入んなきゃならない義務があってそれがまたべらぼうに高い。とてもじゃないけど大学院でドクターコース等を歩むということについては、とにかくかかるとわかっておったけども、大学とは違うけた外れのものだというのを聞いております。私はそういう人の相談にも乗ったこともあるわけでございますけれども、優秀な人を育てるとなると私はかなりうん十万円、うん百万円の単位のもの、年間ですよ、そういうものを考慮していかないと、ちょっとこの育成というものについては余りにもかけ離れる。言葉としてはきれいかもしれませんが、実態はやはり経済的な側面を補うというのが主たる私は内容であろうし、またそういう内容の今の金額ですよ、この制度の。

したがって、それを踏襲していくからには、やはり私は教育委員会でも今の福祉の中で、もちろん福祉の中の方がいろんな生活問題、ケースワーカーとかそういうのいるわけでございますから、生活の援助、支えということになればそちらの方がむしろ適切じゃないか。教育委員会悪いとは言

っていません。教育委員会の方はどっちかというと優秀な人を育成しようという方に進んでいますから、そういう方で進んでもらえばいいんで、むしろ生活で困っている人をどうしようとか、家庭に立ち入って云々ということはむしろ教育委員会よりも福祉の方が得意でございますし、専門分野でございますから、むしろそこに置いておいてもいいんじゃないかと、こういうふうに思うんで、私はこの制度をやるんだったら2本立てにした方がよかったんじゃないかと、こういう意見でございますけども、しかし提案した中でもって今さら云々ということがあるかもわかりません。その場合にはやはりそこら辺は十分運用の中でもって訂正していってもらい、今後はひとつこれは要望的になると思いますけど、この議案説明、市長の趣旨説明の中においても高々と学業優秀な人と訴えられているんです。気持ちいいかわかりませんが、聞く人にはかなり抵抗があるんです。こういう形でもって今後やられていきますと館山市というのは優秀な人だけでもって、ほかのもう落ちこぼれについては面倒見ないのかと、落ちこぼれというのはひがみが強いんですから、私もよくわかるんですけども、そこら辺はひとつ要望的になりますけれども、そういう運用と扱いをしていただけないかどうか、そこら辺についてひとつ再質問させていただきます。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 錦織市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 運用益金についてでございますが、先ほど市長から答弁いたしましたように、事業費が運用益を上回る場合は一般財源をもって充当し、逆に運用益が事業費を上回った場合は次年度以降で調整をしてまいりたいと、このように考えております。

それから、次に福祉事務所から教育委員会にというようなこの問題でございますけれども、福祉を目的の奨学資金条例が今まで続いているわけでございますけれども、福祉的なイメージが連想されまして借り受け申し込みをちゅうちょする方もいたというようなことも実際には聞いているわけでございます。ちなみに、県下28市中23市に奨学資金制度がございまして、館山市を除く22市はすべて教育委員会で扱っている、というような結果が出ており

ます。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 小幡民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 今まで福祉で扱っていましたが、学力というのが1つの基準があったわけですが、これはそれぞれ高等学校へ進むときには中学、大学へ進むときには高等学校、最終学年の全教科の5段階方式による評点が3以上の者という1つの一応学力の基準は今までもあったわけでございます。

◎副議長（石井 謀君） 以上で21番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありますか。

3番田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） ただいまの論議にありました議案第56号、いわゆる奨学基金の貸付条例について何点かお尋ねをしたいというふうに思います。

私も議員やっております、今までの奨学金の制度では非常に大学生を緊急に経済困難に陥った場合救えない、こういった例が多くありました。ことしの2月にも、やはり東北大の工学部に行っていらっしゃる方が、4年生だそうですけども、お母さんが病気になりましてどうもならないという相談がございまして、私も福祉事務所の方にこの貸し付けの基準をお伺いしました。そうしますと、突然保護者が倒れていった場合に収入がなくなるわけですが、こういった方を保護者に持つ学生さんは実際今までの条例ですと貸し付けを受けられないということなんです。

そういった意味で、改めてここでお尋ねしたいんですが、経済的な理由、今までも非常に厳しかったんですね、運用上は。これが今回の条例を見ますと非常に広く理解できるんじゃないかというふうに思うんです。そういう点で、広く解釈をし過ぎて経済的な理由よりも何人か、最終的に予算の関係もありますから上回れば当然審査される方が見ていくでしょうから、そこで学力だけを判断されては困るんだという意見も先輩から出されましたが、現状は私は今までの基準が余りにも厳格になされたために、利用者も聞いてみま

すと余り多くない。しかも緊急時は、本当に困っている学生には適用できない、こういった現状があらうと思うんです。その辺でこの経済的理由なんです、今まではどういった基準で運用してこられて、今回はどの辺までこの経済的理由というのを解釈していいのか。余り厳密に聞かない方がいいのかもしれませんが、その辺どのようにお考えになっているのか、一応目安だけをお聞かせ願いたいというふうに思います。

◎副議長（石井 謀君） 小幡民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 今までの貸し付け制度におきます経済的な理由といたしますのは、所得を基準にしたものと資産を基準にしたものがございます。この所得と資産で配点が70点、学力が30点、100点という配点で、60点以上の者が貸し付け対象となるということだったわけでございますが、この70点の所得、資産関係では、例えば市民税の非課税世帯の者は55点と、それから固定資産税の非課税世帯の者は15点と、もうこれで70点になるというようなことでございましたが、これが課税世帯で市民税の所得割額が20万以上になると10点と、それから固定資産税が13万円以上になるともう零点というような配点、そういった所得で9段階、資産で5段階というようにその段階別に配点が定められていたわけでございます。

◎副議長（石井 謀君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 新しい奨学資金につきましては、現在教育委員会でそういった細部の点についてはこれから研究すると思っておりますので、現在のところまだそこまではっきりしておりませんので、拡大はもちろんしていくということでございますが。

◎副議長（石井 謀君） 3番田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 細部はこれ以降検討されると。私は基本的には大学に入る、高校に入る、こういう方が気楽に使える、利用できる、こういった方がいいと思います。もちろん成績が優秀な方は育英会の奨学金も使えるわけですし、各大学にも奨学制度もございますし、頭いいという人はそういうのを使えるんですよね、現実には。そうですから、私は市の奨学金制度は少なくとも高校に入りたい、大学で勉強したい、大学行っていて緊急時に本当困

った、授業料払えない、こういった場合にやはり学業ができる、広く活用できる、そういうふうにした方がむしろ市民にとってはありがたい、正直言って。そういう意味で幅広く理解できるような、いわゆる運用の細部を決めていかれるときにそういうふうにしていただきたいということをお願いしたいというふうに思います。

◎副議長（石井 謀君） 18番日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 通告いたさなくて恐縮でございますが、各委員会の審議に入る前に一、二御質疑いたしたいと存じますので、先ほど来問題になっておりますふるさと創生でございますが、議案的には第56号のふるさと創生奨学資金貸付条例についてお聞きいたしたいと思います。

御案内のように、このふるさと創生は竹下政権が1億円を地方団体にやるから使いなさいよということの中で政策が組まれたものであろうと存じます。私も3月の議会でこの1億円の問題について少しく御質問をいたしたものでありますが、私はこの1億円というものは極端なことといえばあめを買って食ってもいいんだよという一過性のものであろうという受けとめ方を現在もいたしておるわけでございますが、今回館山市のこの政策はいやそうじゃないんだということだろうと思うんです。ですから、私は例えばきのう小宮議員がおっしゃったように大噴水をつくるなり、あるいはまた城山に1億円のネオンサインをつくるなり、そういうことの方が奇抜なアイデアでテレビにも出るだろうし、館山市の宣伝にもなるのではないかと今でも思っておるんですが、いずれにしても館山市はこういうことできた。つまり1億円を6万人で分けてしまうと何ぼにもならんから、ひとつ国家百年の計のもとにおいて人材育成をいたそうと、こういうことでこの54、55、56号をつくったということだろうと思うんですが、このつくったということにおいては一応それはそれとして認めることにやぶさかではございませんが、そこで今までの御議論を聞いておりますと、つまりこの56号は経済的側面から教育的側面を強調することにいたしたよと、こういうことだと思うんです。ですから、その担当部も福祉事務所から教育委員会に移ったということだろうと思うんですが、ならば先ほど辻田議員もいいましたが、金額が月額2万やそこいらではこれ

は少ないんだと。せっかく人材を登用していくんだ、これは館山市の定住圏ということがあるということからそのことも後でお聞きますが、定住もさることながら天下、国家、世界を担う人材を育成するというのにたかだか月々2万やそこらで、しかも5人と7人ということになるとこれは金額が少ない。むしろもっと2億でも3億でも出してやるべきだというのが第1点です、お聞きいたしたい。

それと、私は辻田議員とはちょっと違ひまして、これは高校生以上にやるということですから、学術優秀とかということ大変いろんな含みがありますけれども、やはりある程度優秀な者にやると、これはもう義務教育でありませんから高校以上は、現在は。ですから、やはりある程度学術優秀、ここに見ますと第3条では学術優良ということで、優良と優秀とどう違うかわかりませんが、この細かいこと聞いても仕方ありませんが、いずれにしてもある程度優秀な者にやるということは私はよろしかろうと思うんです。ただ、細かいことというと、この3条で性行善良で志操堅実な者というようなことになると、これ我々どういう意味なのかわかりません。こういう難しい言葉やられますと、これはどういうことなんです、性行善良で志操堅実な者。ですから、これはもう少し平易なもので書いてもらった方がよろしかったんじゃないかなと思うんですが、いずれにしてもそういうことであります。

もう1点、人材育成ということで56号で10条の第2項ですか、館山市に帰って来た者についてはこれを緩和するよと、返還を。2条、「市長は、一般奨学者であった者で館山市に住所を有する間、毎月返還すべき額の3分の1を免除する」というと、例えば帰ってきて3月いれば3月はその間猶予するけれども、それ以上は猶予しないというようなことなんではないかなと思うんですが、この辺つまりこれは少しちょっとこそく過ぎないか。

さらに、この3分の1というのは一体どういう意味なんだと、これ、3分の1。これは館山市に住むならば全額をすっぱり返済しなくていいから、そのかわりこの小さな館山市の中でやってくれよということならまだわかりませんが、帰って来たら3分の1で3分の2はまだもらいますよということでは少し心が狭いのではないか。せっかく帰ってくるんでございますから、もう

全額を免除するんだというようなことにいたすべきではなかろうかと、こう思うわけでございますが、その2点か3点についてお聞きいたしたいと思います。

◎副議長（石井 謀君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 私の方から訂正させていただきますけども、高校生は7人で大学生は10人でございますので、数はこのとおりでございますが、大学生2万2,000円少ないんじゃないかというような御指摘でございますが、これは日本育英会の奨学資金が月額3万2,000円でございます、それを基準にしたものでございます。館山市は支度金、今度の案でございますと50万円出します、それ合わせますと大体同額というようなことで、2万2,000円という貸付金の基本が出てまいりました。

それから、性行の問題で非常に何かいじめ過ぎるんじゃないかといいますと、私たち先ほど成績の問題も出ましたし、性行の問題も出ましたけれども、大体普通というのが成績、性行が優秀だということになるわけです。優秀というのは優秀の方が上なんでございますけど、普通の悪いことをやらない人間と、その意味に御解釈を、ひとつ御理解いただきたいと思いますが。

なお、成績優良、優秀のあれが出ました。これも大体先ほど民生部長の方からお話があったんでございますけども、大体3.0以上といいますと、これは学生でございますから、いわゆる勉強してもらわなきゃならないわけです。就学にたえられる能力持っている人間といいますか、大学嫌になっちゃうようじゃ困ります、勉強するのが嫌になっちゃうのは困るんでございまして、就学にたえられる能力を持った人間というのが普通の我々の成績優秀、成績優良と、このように考えているわけでございます。

なお、ふるさとへ帰って来たんならば、館山市へ帰って来たなら3分の1と言わず何かちょっとしみたれているんじゃないかというような御意見でございますけども、やはり無制限というわけにはいきませんので、一応貸したものは返していただけるというような、返していただくということでいわゆる基本的な考え方できておりますので、もし館山市へお帰りになって、そして館山市の発展のために活躍されるというならば、3分の1は返還しなくて

もよろしいんじゃないかというようなことになったわけでございます。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 18番日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） およそわかりましたんですけれども、言うようにやはりもう少しでは基金をせっかく1億、今回の場合は1億何千万ですか、それにオーバーしているわけですから、いま少し資金を拠出して金額を上げるべきではないのか。先ほど来の御答弁で再三再四経済的な理由よりも、今言うように学術優良な者というような面が相当強調されるようですから、勉学にいそしめる程度の金額いま少し上げた方がよろしいのではないのか。今聞きますと、支度金と合わせると同額になるといいますか、支度金は支度金でありまして、これは館山市の特別な計らいということでありまして、月々の金額もいま少し上げるべきではなからうかと思うわけでございます。

語彙の問題は、そういうことでこれはあれでございますが、あと3分の1、どうも3分の1というのは、3分の1なら借りない方がいいなというところがあるんじゃないかなと。現実に館山市を見てみますと、学卒の方がほとんどこっちへ来て就職するというと、公務員とかそんなところではなからうかなと思うわけでございますが、この3分の1を2分の1なりに引き上げるということを御要望して終わります。

◎副議長（石井 謀君） 5番岩村勝弘君。

◎5番（岩村勝弘君） 私も通告はいたしませんでしたが、と申しますのはこの議案が私の所属する文教民生委員会の方に付託されるんじゃないかということで通告はいたしませんでしたが、現在までの方々の御意見を聞きながら1つだけ私はお願いしたいこと、要望したいことを申し上げたいんです。

と申しますのは、この間の全員協議会のときでも申し上げましたが、このふるさと創生基金の大部分が、予算の半分がこの奨学基金に充てられるわけですが、私はこれが決定される前までに初めて — ほかの人たちは聞いていたかもしれませんが、いわゆるこれがこういうように決定したんだということを初めて全員協議会のときに、3日前ですか、聞かされ

たようなわけで、これは私の勉強不足だと言われればそれまでなんですけれども、10月1日ですか、これを施行するというようなこともそのときお話があったわけでございます。こういうような3月議会でも今日下議員が言われたように質問をされておりましたし、議員の我々にはもう協力したいという、議会もそして行政の方も協力しなければ館山市はよくならないんだという認識は十分みんな持っておるわけでございますので、我々にも議員ということちょっとうるさいことばかり言って、横やりばかり入れるんじゃないかという御認識でなく、一言でもこういうようなことについての何といいますか、こういうように進んでおるんだということについて説明される、また御相談を受けるということが私はほしかったというようなことを考えております。

と申しますのは、今の基金にする、奨学金にするという実態調査の中で、各庁内から出た人材育成に使ったらしいということが4件、これが一番多かった。しかし、11件中の4件、そして市民からの49件の提案があったというその実態の中から人材育成は7件。となると、49件中7件、これは恐らく提案された件数が非常に少なかったので、そういうようなところから考えるとどうしてもアンケートはこういうように分かれていってしまうということが、これがもう常識でございます。とすると、例えば49件の提案があった中の7件、しかしこの49件のうち例えばリゾートとか環境問題に関する問題は14件まとめてみるとあるわけです。と申しますのは、環境の美化、浄化に5件――これは全員協議会で出された資料なんですけれども、環境美化に5件、それと自然環境保全3件、公園の整備1件、下水道4件といて、結局この環境的な面に使ってもらいたいということは、具体的にはただ環境美化とか自然環境保全とかと言っているけれども、環境に対する問題について使ってもらいたいという人が、そういう件数が14件あったわけです。ですから、じゃ人材育成の7件よりもはるかに上回っているんじゃないかと、こういうように考えられるわけです。ですから、こういうような実態調査をやった上で決定されたと。先ほども市長さんが相当この説明のときに、みずから考えみずから行うふるさと創生基金だというようなことを、冒頭二、三回とにかく言われておったわけでございますけれども、この奨学金についてはみずから

考えみずから行うというような点について、考える点についてもまた行う点についても、奨学基金はある程度これはほかの市町村でもいわゆるロータリーでもつくってある、それから障害者の、交通遺児とかいろいろなことでというような奨学金というものはつくられているので、ふるさと創生基金としてのあれはどうだろうかというようなことが考えられるわけです。

ですから、先ほども日下議員が3分の1とはちょっとみみっちいなというような発言をされましたけれども、大学でもって1カ月1万6,500円を償還し、95カ月で156万7,000円、そのうちの3分の1というと50万円返さなくていいんかどうか、ちょっと私は計算しただけでその点ははっきりしませんけれども、でも概算こうやって計算してみるとそういうようなことが出されるわけです。

ですから、そういうような点、要は私の結論的な、きょう申し上げます細かい点については委員会で御質問をいたしたいと思っておりますけれども、全体的にとにかくこのふるさと創生基金というのは、ある学者が各自治体の長の政治的手腕といいますか、そういうようなことを試される、その力量を問われる問題であるというようなことを、これが創設されたときに言われておりました。ですから、そんなような意味で私たちもこういう点について御質問とか御意見を申し上げるわけでございますけれども、そういう点冒頭申し上げました、どうぞ我々にもいろいろな点を相談していただきかったけれども、その点はどうだったんだろうか、突然とにかく開会の冒頭全員協議会でこうですというようなことがなされたんですけど、そういう点をひとつよろしく願いいたします。

◎副議長（石井 謀君） 他に御質疑ございますか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎副議長（石井 謀君） ただいま議題となっております議案第50号乃至議案第57号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎副議長（石井 謀君） 日程第3、議案第58号平成元年度館山市一般会計補正予算（第3号）を議題といたします。

質疑応答

◎副議長（石井 謀君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 議案の第58号一般会計の補正予算につきましてお尋ねをいたします。

議案書の12ページ、衛生費中、環境衛生費ということで3,600万円の増額の補正が計上されておるわけでありますが、説明資料15ページによりますと相浜排水路の浄化施設設置工事とのことであります。そこで、お尋ねをしよういたしますが、まず第1点は相浜海水浴場の水質の悪化、これにつきましては昭和61年ごろから特に目立ってきたと思うのでありますが、この水質悪化の原因についてどのように考えておられますか。消波ブロックの設置による影響はかなり大きなものがあると思うのでありますが、いかがでありますでしょうか。

第2点は、相浜排水路の浄化施設は予算上3,600万円という工事費で、230戸の排水を面倒見るということでございますから、1戸当たり直しますと15万円ほどということになるかと思えます。大変経済的にも効率のいいものであるという理解をいたすわけでありますが、この施設についてもう少し具体的な御説明をいただきたいと思えます。

次に第3点は、海の汚染の問題は相浜の海岸に限らないわけであります。まだまだ浄化対策の必要な河川大変多くあると思うのでありますが、こうした浄化施設設置の必要について、他の排水路についても今後設置を進めていく、こういう考えについてはあるのかないのか御説明をいただきたいと思

ます。

次に、議案書の14ページでございます。商工費中、観光費としてウェルネスリゾートパーク整備基本計画策定業務委託料として1,200万円の増額の補正がされておるわけであります。当初予算の予算書によりますとその予算額は明示されていないのでわかりませんが、今回1,200万円の増額の補正がなされました。しかも、財源につきましては国、県から800万円、これが計上されているわけであります。整備基本計画策定業務を委託しようとするこのウェルネスリゾートパークとはどのような内容のものなのでありましようか、御説明をいただきたいと思ひます。

次に、リゾート開発の実施主体、事業主体は民間事業者とする、これが原則とされてこれまでもたびたびそのような説明を耳にしてまいりましたが、このウェルネスリゾートパークの事業主体は何でありましようか、御説明をいただきたいと思ひます。

以上、2点にわたりましてお尋ねをいたしました、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（石井 謀君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えをいたします。

議案第58号でございますが、まず相浜海水浴場の水質悪化の原因についてどう考えているかということでございますが、相浜排水路、巴川より流入する生活排水路及び畜産経営に伴う排水が主な原因であると考えております。

なお、消波堤の設置による海水浴場への影響はどうかということでございますが、県事業でございますので問い合わせましたところ、テトラポットによる消波堤ということで、これは海水の透過性を十分考慮した構造であり、これによる海水の拡散速度は若干遅くなることは考えられるとのことでございます。

次に、構造物の築造による自然に与える影響の調査は行っているかという御質問でございますが、既存の漁港施設の改修に対しては行っておりませんが、新規に漁港を築造する場合は実施するというところでございます。

次に、小さな第2点、相浜都市排水路浄化施設の内容についてでございますが、半地下式で幅 3.5メートル、高さ 2.6メートル、長さ41.1メートルの鉄筋コンクリート組み立て式で、集水ピット、沈砂槽、流量調整槽、曝気槽、処理水槽及び放流槽より構成するものでございます。相浜1号排水路の生活排水をポンプにより取水し、送水管口径 100ミリメートル、延長 166メートルにより2号排水路に隣接、設置する浄化施設に1号、2号排水路合わせて日量最大 500立方メートルの原水を導入し、水中バクテリアが付着しやすい床を設け各層を通過する間に浄化し、滅菌の上放流する施設でございます。

次に、小さな第3点、浄化対策として施設設置が必要と思われる排水路につきましては、処理施設の用地確保が大きな問題となっております。また、必要と思われます排水路につきましては、流量調査、BOD汚濁負荷量などの調査を実施してまいりたいと考えております。

次に、議案第58号観光費中、ウェルネスリゾートパーク整備基本構想についての御質問でございますが、62年度に策定いたしました海洋性リゾートタウン基本構想に基づきまして、その理念でありますウェルネスファミリーリゾートの中核拠点としての施設整備をしようとするものでございます。これは都市公園を1つの中心的な施設として周辺に民間施設を整備しようとするものでございまして、ウェルネスをテーマとして一体的な整備計画を策定しようとするものでございます。計画の策定に当たっては、国、県等が参加する調査委員会を運営する予定になっておりまして、大きな期待を寄せているところでございます。

次に、ウェルネスリゾートパーク構想の策定業務委託料についてその事業の実施主体は何かという御質問でございますが、この計画は都市公園として公共が整備する区域、民間を誘導して公共性の高い施設を整備する区域及び民間独自での整備をする区域の3つについて検討をしております。したがって、おのこの整備方向、事業手法等についての検討の結果によりますが、予測される事業主体といたしましては、公共、民間、あるいは双方の共同出資による第三セクターも考えられます。

以上、答弁終わります。

◎副議長（石井 謀君） 11番神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 相浜の関係でありますけれども、ブロックの設置以前、それ以降という点から見ますと、たまたまそうなったというふうに見るべきなのかわかりませんが、確実にこの消波ブロックの設置以降かなり水質が悪くなったという事実関係についてはそのとおりではないかなと思うんですが、この辺はどうでありますか。県の説明では、透過性があるからそれほどのことはないはずだというんですけれども、どうもその辺については県なりの言い方だなという気がするんです。海に構築物をつくるというのは、我々が考えるよりもやはり潮流、海流、こういうものへの影響は大変大きいのではないかなと。したがって、それに対する検討を怠るとしっぺ返しをくらうというのが今度の1つの例なのではないかなということで、今後新規に海にこうした消波ブロック等の問題については、潮流等の影響を配慮して検討していくんだというお話でございましたが、大変重要なことだと思うんです。ぜひそういう点で今後は対策をとっていただきたいと思うわけです。

まず、認識の点で透過性ということで影響はそれほどないという御説明があったんですけども、事実の認識としてはどうなんですか、消波ブロックの前と後。我々常識的に考えると、外海ですから海の浄化力というのは大変強いわけですけども、その相浜でああいう事態が生じたというのはやはりこの影響が大きいというふうに私どもは考えるんですけど。

それから、他の排水路に関しては用地確保が大きな課題だと、それでまた必要と思われるところには今後BODあるいは流量、こうしたものについての調査をしていくというお話でございました。大変ぜひそういうことで、特に私は那古なんかに住んでいますけれども、那古の海なんかも大変汚れております。この排水路等についても、用地の確保の問題ということは確かにそうでありましょうけれども、やはり浄化対策は必要だろう、こういうことを非常に感じるわけです。そこで、こうした中小の排水路でBODや流量の調査を今後していきたいんだというお話でありましたけれども、こうした調査をしていく対象、これは何カ所あるというふうに考えておられるのか、まだ

具体的な箇所についての検討が進んでいなければ進んでいないの御答弁でいただきたいと思うのであります。

それから、次にウェルネスリゾートパークの関係であります、大体都市公園、これが公共が中心になって国及び県、市ということだろうと思うんですが、これが中核になって施設の整備を図りたいということで、これは従来の民間業者にということとは基本的に違う内容だろうと、国、県もそれだけの資金なり資本なりを投下しようと、こういうふうにならぬというお話からは理解をするわけでありましたが、そこで今回 1,200万というようなことで増額の補正があるようでありましたが、当初の予算の中でこの金額が明示されておらないというようなことで、この委託の予算総トータルでは大体どのくらいの予算なんですか、そしてこれの策定業務委託ですか、委託先はどこになるんですか。

◎副議長（石井 謀君） 小幡民生部長。

◎民生部長（小幡清之君） 排水路で浄化施設の設置が必要と思われる排水路の検討でございますが、ただいま考えておりますのは、下町排水路、北条海岸排水路、六軒町排水路、北条中央排水路、南町排水路、那古排水路、芝2号排水路、大体この程度について検討してみたいと考えております。

◎副議長（石井 謀君） 安西経済部長。

◎経済部長（安西良一君） テトラポットによる影響はどうかという御質問でございますが、その事実関係はどうか、こういうことでございますけれども、一般的に申し上げますとテトラを敷設いたしますと、波等によりましてその内側に砂等が堆積していくというような事実はございます。したがって、それはかなり長い間にそういう現象が起きてくるということでございます。したがって、全く関係はないということは言い切れないんじゃないかなという考えを持っております。

それから、委託する予算についてということでございますが、これはちょっと額は控えさせていただきたいと存じます。委託先でございますが、社団法人の日本緑地協会といいまして、これは建設省の傍系団体でございます。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 以上で11番議員神田守隆君の質問を終わります。

次、21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） 通告した事項は非常に多くございますけれども、補正予算でございますし、委員会もございますので、簡単に御質問を申し上げたいと思います。

まず最初に、補正予算案の9ページでございますけれども、ここの総務管理費の中の一般管理費、日本デザイン会議89千葉というのがあるんですけども、これはどういう内容で、どういう趣旨でこれが開催されるのか。そしてこの開催に当たりまして、これは民間団体のようにございますけれども、ここに補助金を出さなきゃならない理由は何か教えていただきたい。今後これが前例になりまして、メッセ等のこうした会議には出していかなきゃならないような状況になるのかどうかというものが懸念されるわけでございますので、その点について御質問します。

2番目には、そのすぐ下の企画費の中の普通旅費でございますけど、これは南部広域圏に派遣する職員の旅費ということになっておりますけども、この南部広域圏の代表者はだれなのか、そしてその事務所はどこにあるのか教えていただきたいという以上でございます。

それから、3番目に10ページの12目諸費の中でございますけれども、ここでもって非常に県、国の補助金が返還になっているんですけど、額は小さいんですけども、これはどういうわけでこういう返還が出てきたのか、説明をいただきたいというふうに思います。

それから、4番目には12ページでございますけれども、これは相浜の浄化対策でございまして、先ほど神田議員から質問ございましたので、この点については省略をいたしたいと思います。

それから、その次に13ページの水道費でございますけれども、ここに先ほどの南部地域広域水道企業団ができるわけでございますけど、1,489万の予算が計上されているわけでございますけど、これは主としてどういうものにどういう形でもって支出されるのか、その点について御説明をいただきたい

いというふうに思います。

それから、14ページの商工費の中の観光費でございますけども、これにつきましては先ほどウェルネスリゾート計画に対するものですが、神田議員から質問ございましたので、この点については了解をいたします。

次に、15ページの都市計画街路事業費でございますけど、都市計画街路基本調査の設計委託でございますけれども、これにつきましてはその内容がどういうものであったのか、そしてここでもって300万の追加するわけでございますけど、当初予算にどうして組めなかったのか、この点についてお伺いをいたしたいと思います。

その次に、その下の城山公園の整備工事請負費でございますけども、これも同様に2,800万という工事請負がされるわけでございますけど、こうしたものにつきましては補正予算で組まなきゃならない理由がどうして生じたのか。補正予算という場合には緊急を要するもの、また補助金がついた場合、こういうようなものについて行うのが通例だと思うんですけども、一般の経常的なもので特に補助金等もつかない約3,000万近くのを9月でもって追加していくという点についてはどういう事情があったのか、この点について説明していただきたいと思います。

それから、16ページの最後の造形作品購入費でございますけども、これにつきましては基金が設けられまして、基金運用ということでもって予算化されたと思うわけでございます。ここで補正の中でもって基金運用じゃなくて、ここに基金がありながらなぜここに927万というものを計上して購入しなきゃならないのか、本来であれば基金の方から繰り入れられて、そして出るというんならわかるんですけども、基金の繰り入れもなく、基金に手をつけずにここでもって作品のものが出ていくというのは、基金との兼ね合いでもってちょっとおかしいんじゃないかというふうに思うんですけども、これはどうしてこういう格好で、しかもそれは補正予算ということでもって出てきたのか、この点についてお伺いをする次第でございます。

以上でございますので、よろしくお願いいたします。

◎副議長（石井 謀君） 半澤市長。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 辻田議員の御質問にお答えいたします。

議案第58号、日本文化デザイン会議についてでございますが、日本文化デザイン会議89千葉幕張の会議については、同会議は梅原猛氏を中心に日本の文学、デザイン、建築、都市計画等、多彩なジャンルから100人の会員で構成されており、10月12日から14日まで日本コンベンションセンター——幕張メッセでございますが、を会場に開催されるわけでございます。80年代の社会をどのように構築し、21世紀の日本社会の基本的な規範づけなどの認識をもとに、シンポジウム形式による地域的課題や地域文化の問題提起を行う会議でございます。日本コンベンションのオープンは、千葉県の発展にとって記念すべき事業でございます。日本デザイン会議は、最初のイベントとして、文化、国際化の推進を掲げる千葉県にとって極めてふさわしい会議でございますので、県下各市町村で補助をいたします。総事業費は3億5,600万円で、そのうち450万円は市町村の負担となります。

なお、第1回は1980年に横浜会議を開催され、今回は第10回の記念大会となっております。今後は新しい形式による日本文化デザイン会議を他県において開催すると伺っております。

次に、2款1項6目の企画費の中の旅費でございますが、南部地域広域水道企業団設立準備を推進するため急遽県から市職員の派遣を求められ、去る6月末から1名を県水政課分室へ派遣しております。その職員にかかわる通勤定期代の支給などの旅費について増額をお願いしようとするものでございます。

次に、国、県の補助金の返還についてでございますが、これは昭和63年度分各種福祉事業の精算に伴う返還金でございます。主なものといたしましては、老人家庭奉仕員事業県補助金返還金19万3,000円についてでございますが、これは家庭奉仕員の交通事故に伴う勤務日数の減によるものでございます。また、老人日常生活用具給付事業県補助金返還金4万6,000円につきましては、予測していた特殊寝台等の申請がなかったものであり、身体障害者保護費国庫負担金返還金4万3,000円については補装具申請件数の減による

もの等でございます。

南部広域水道企業団の設立促進協議会の概要と負担金についての御質問でございますが、千葉県南部地域の広域的水道整備を推進するため、安房、夷隅郡市の17市町村で共同して企業団方式により水道用水供給事業を行うべく、その準備として本年7月13日に南部地域広域水道企業団設立促進協議会を発足させたところでございます。

組織につきましては、17市町村の長及び議会議長をもって構成され、総会において会長に勝浦市長が選任されました。事務所は、千葉市亥鼻二丁目5番3号、千葉県企画部水政課分室内に置かれております。

事務の内容につきましては、企業団設立に向けての水道用水供給事業の基本計画の策定及び企業団規約等の作成でございます。

また、負担金につきましては、支出総額 2,239万円から県補助金 750万円を差し引いた残りの 1,489万について市町村で負担しようとするもので、当市の負担金は均等割43万 4,000円、人口割 166万 1,000円、合計で 209万 5,000円でございます。

次に、都市計画街路設計委託料についての御質問でございますが、その内容を申し上げますと都市計画道路船形館山港線の基本実施設計を先送りし、同川名大賀線の予備設計委託を新規にお願いしようとするものでございます。

まず、船形館山港線につきましては、県からリゾート関連道路として調査設計費も県の単独補助事業の対象となるとの意向が示されましたので要望をし、かつ当初の予算に商工会館前から安房博物館前までの 1,700メートルの間について、基本実施設計の業務委託を計上したところでございますが、補助額の関係から対象外となりましたので、関連事業であります館山駅西口地区土地地区画整理事業で予定されております都市計画道路渚線との整合は次年度以降でも対応できることから、県の補助制度の動向を見ながら事業化を図ることが有利と考えられますので、減額補正をお願いするものでございます。

次に、川名大賀線につきましては、県事業でお願いしております主要地方道館山白浜線バイパスの事業化が県の単独事業として早まる可能性が高くなり、青柳地内での交差点部の協議、用地、工事等の整合が急務となったこと

及び沼地区の土地改良事業の計画区域内を通る関係から路線の位置出し等も必要となりますので、あわせて館山白浜線のバイパスの交差点部から大賀地先までの約 4,400メートルの予備設計の業務委託について増額補正をお願いするものでございます。

次に、城山公園整備工事請負費についての御質問でございますが、事業の内容を申し上げますと日本庭園工事に関連いたします庭園周囲の植栽、表門、裏門及び腰かけ待合の建設と、各公園等の管理の拠点となります管理棟の建設でございます。城山公園は、御承知のとおりいつでも自由に出入りができ、夜間の管理がされておきませんので、日本庭園、茶室の適切な維持管理を図るために原則として昼間の利用に限ることとし、周囲からの自由な立ち入りを排除し、出入り口を限定するために門を建設しようとするものでございます。

また、腰かけ待合につきましては、日本庭園、茶室と一体的かつ正式な茶会等には必要な施設であるということから、工事としましては既に着手しております日本庭園と場所的にも整合を図りながら進める必要がありますので、今回増額補正をお願いするものでございます。

次に、管理棟の建設でございますが、新年度から各都市公園8カ所の管理のみならず、市が管理しております公共施設の植栽等についても一元的な管理を計画しており、その拠点として建設しようとするものでございます。

なお、現在の詰所は旧軍のごう跡を利用しており、狭小でかつ湿度も高く、職員の健康管理の面からかねてから建設を検討していたところでございまして、日本庭園等も年度内完成ということから、これらも勘案しまして増額補正をお願いするものでございます。

議案第58号につきましては、教育長から答弁を申し上げます。

◎副議長（石井 謀君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 議案第58号、造形作品購入費についてでございますが、造形作品の購入につきましては年度当初価格が未確定なものがあるために、御承知のとおり館山市文化振興基金制度を活用して取得いたしており

ます。今回この基金で取得いたしました彫刻の径に設置いたしました船越保武先生の製作のブロンズ像「シオン」を基金会計から購入しようとするものでございまして、今後の基金運用上補正をお願いするものでございます。

以上でございます。

◎副議長（石井 謀君） 21番辻田 実君。

◎21番（辻田 実君） 再質問につきましては常任委員会の付託もございまして、その中で審議されると思いますので、以上でもって終わりたいと思います。

◎副議長（石井 謀君） 以上で21番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ございませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎副議長（石井 謀君） ただいま議題となっております議案第58号は、お手元に配付の議案付託表のとおり所管の常任委員会に付託いたします。

請願書の上程

◎副議長（石井 謀君） 日程第4、請願第20号館山市館野の全地域に、上水道を早期に設置願うことについての請願書を議題といたします。

委員会付託

◎副議長（石井 謀君） ただいま議題となりました請願第20号は、9月11日議会運営協議会開催までに受理したものであります。

お手元に配付の請願付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

延 会 午後零時05分

◎副議長（石井 謀君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎副議長(石井 謀君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は、明9月20日午前10時開会とし、その議事は昭和63年度各会計決算の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第49号乃至議案第58号
- 1 請願第20号